

ONE WORLD Info

英語教育 通信
2018 Autumn

特集

よりよい小中の
連携・接続を
目指して

新連載

Culture Notes Plus

Vol.1 オーストラリア

柳沢 有紀夫



教育出版



新連載！

教科書のCulture Notesの番外編として、海外のリアルな情報をお届けします。

第1回はキング先生の故郷、オーストラリア。

1年Lesson 6でラグビーをする中学生を取り上げていますが、スポーツへの取り組み方が日本の部活動とはかなり異なるようです。

「スポーツ大国」をつくるのは「楽しむこと」から

オーストラリアの中学生のスポーツ事情



人口は日本の5分の1なのに「スポーツ大国」のイメージが強いオーストラリア。ラグビーは世界有数の強豪国ですし、サッカーの代表チームはアジア連盟内で日本の強力なライバルの一つですね。中学生が実際に行うスポーツで人気があるのは、男子はサッカーやラグビー、そしてクリケット。女子はバスケットボールによく似た「ネットボール」に、サッカーやホッケーあたりです。

そんなスポーツ大国のイメージとは裏腹に、放課後の練習はかなりのんびりしています。まず一年を通じて活動するわけではありません。たとえば秋冬はサッカーやラグビー、春夏はクリケットや水泳と、別のスポーツを楽しみます。

学校の「部活」と地域のクラブチームに入る生徒の割合は半々くらいですが、いずれの場合も練習は週1回かせいぜい2回。一方、試合のほうは毎週末あり、しかも練習試合ではなく公式戦！日本でよくある「夏の大会」のようなトーナメント方式ではなく、シーズンを通じて

リーグ戦で20試合ほど戦ったあと、上位チームによるプレーオフで優勝が決めます。

もう一つ日本との大きな違いは、うまい選手たちが集まるAチーム以外のBチームやCチームでも、先ほど書いたようなシーズンを通したリーグ戦に参加すること。たとえばAチームが1部リーグに所属したとしたら、Bチームは2部で、Cチームは3部といった具合に、レベルがあった相手と戦います。というわけで、「万年補欠」とか「3年所属したけど公式戦には一度も出場しなかった」ということはありません。スポーツは楽しむことがまず大切だと私個人は思うので、みんなが出場できて、ヒーローになれるこのやり方はすばらしいと感じています。

練習よりも実戦重視。チームのみんなが試合に出られる。そんな「楽しむこと優先」のスタンスが、もししたらオーストラリアの強さの秘密なのかもしれません。

(写真・文：柳沢 有紀夫)

もくじ

新連載!!

Culture Notes Plus Vol. 1 オーストラリア

「スポーツ大国」をつくるのは「楽しむこと」から 柳沢 有紀夫..... 2

特集 よりよい小中の連携・接続を目指して

9年間の学びをつなぐ外国語教育

黒川 理美（横須賀市立諏訪小学校 校長）..... 4

小学校での経験を活かした授業づくりの工夫

天本 晋平（おおさわ学園 三鷹市立第七中学校 教諭）..... 7

連載 英語教育なんでも相談室03

リーディングの前後にどのような活動を取り入れたらよいか

本多 敏幸（千代田区立九段中等教育学校 指導教諭）..... 10

とっておきの英語16

I am brave, I am bruised

I am who I'm meant to be, this is me

（映画『グレイテスト・ショーマン』より）

野田 小枝子（津田塾大学大学院 教授）..... 12

今ドキ英語事情18

Say cheese!

ピーター J. コリンズ（東海大学 教授）..... 14

英語教育通信『ONE WORLD Info』2018年秋号をお届けします。

今号では、新学習指導要領に向けた移行期間の開始を受けて、

「小中の連携・接続」を特集として取り上げています。

ぜひ授業のあいまなどにお楽しみいただければと思います。

9年間の学びをつなぐ外国語教育

～新学習指導要領の先行実施の取り組みを通して～



横須賀市立諏訪小学校 校長
黒川 理美

言葉を通して人と関わる力を育てたい

本校は横須賀市の中心部に位置しています。横須賀米海軍基地に隣接し、周辺には米国人だけでなく様々な国籍の外国人が居住しています。国際色豊かな環境で育っている本校の児童は、外国人や外国の文化に日常的に接しています。

このような地域特性をもつ本校では、外国につながる児童の割合が各学年3～4割に上ります。言語や文化の多様性に触れる機会に恵まれている一方で、言葉や価値観の違いなどから、思いを伝え合うことに苦手意識をもつ児童の多いことが課題です。コミュニケーションの指導を通して、児童に多様な他者と関わる力を育成していきたい—これが本校の外国語教育の原点です。

小中一貫教育における外国語教育

本校は、平成23年度以来、本市「小中一貫教育推進校」として、近隣の田戸小学校、常葉中学校とともに、「グローバル社会でたくましく生きる子どもたちを育てる」という共通のテーマの下、9年間の学びをつなぐ取り組みを行っています。

平成27年度からの3年間は、文部科学省「英語教育強化地域拠点事業」の研究開発校として、市立横須賀総合高校を加えた4校で、小・中・高の12年間の学びをつなぐ研究を、新学習指導要領の完全実施

に向けて、推進してきました。

さらに今年度からは本市研究指定校として、「コミュニケーションを通して達成感を味わい、主体的に学ぼうとする児童の育成」をテーマに、小中一貫の外国語教育に取り組んでいます。

9年間の学びをつなぐ

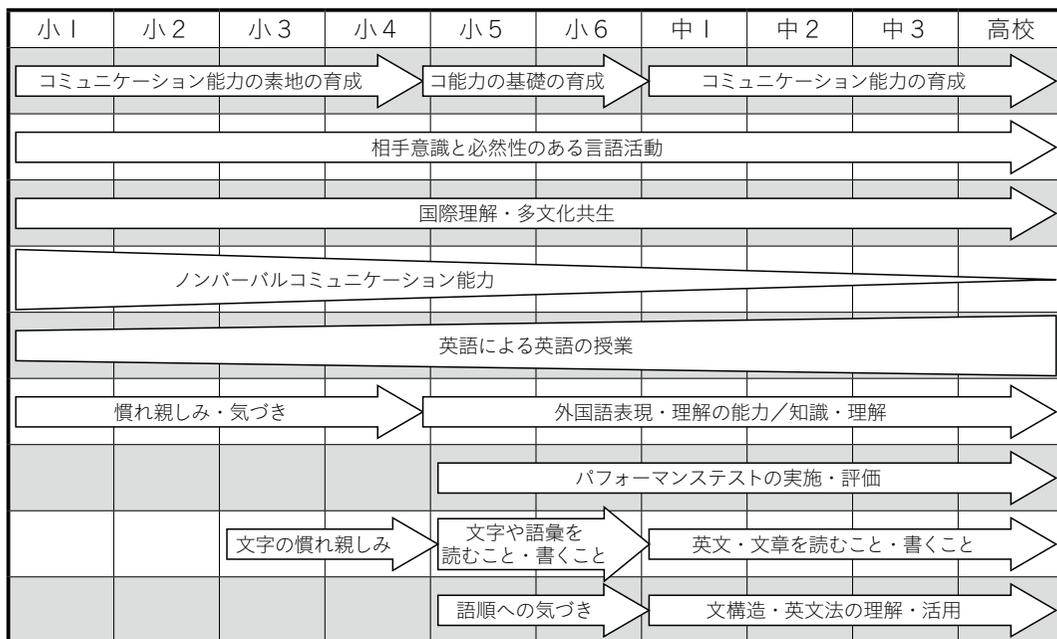
本校が、新学習指導要領の先行実施というかたちで、中学年の外国語活動（年間35時間、週1時間）と高学年の外国語科（年間70時間、週2時間）に取り組み、3年目になります（低学年は本市独自に年間10時間、月1時間実施）。これまでの研究の成果と課題をふまえ、小中一貫教育の視点で取り組んでいることを紹介します。

①到達目標を共有する

文部科学省の研究開発校として作成した小・中・高12年間の学習到達目標「横須賀市CAN-DO (WANT-TO-DO)リスト」（小学校はWANT-TO-DOリスト）は共通の指標です。



資料1 「授業づくりの軸」を考える



また、「授業づくりの軸」を図式化し、それぞれの校種でめざす姿を明確にして、日々の授業に取り組んでいます。(資料1)

②低学年活動型、中学年活動型、高学年教科型カリキュラムの作成

横須賀市独自の標準カリキュラムである『ハッピータイム』、文部科学省の『Let's Try! 1・2』『We Can! 1・2』を参考に、系統的、教科横断的な視点でカリキュラムを作成しています。横須賀の名所を題材にした「横須賀アルファベットチャンツ」「横須賀アルファベットかるた」などの本市独自教材を用いながら、他教科等と関連付けて、地域のよさを発信する活動も行っています。(資料2)

③中学校に学びをつなぐために大切にしていること

○単元目標を明確に

- ・何ができるようになることを目標とするのかを明確にして、児童が聞いてみたい、言ってみてみたい、読んでみたい、書いてみたいと思うような活動を設定するようにしています。
- ・目標に対してバックワードで単元計画を作成します。特に高学年では、目標を達成するに

はどのような語彙・表現を知りたいか、言ってみてみたいかなど、児童が主体的に言葉を学ぶような働きかけを心がけています。

○目的、場面、状況等を明確にした活動を

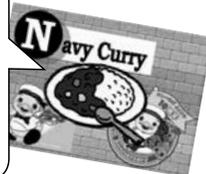
- ・どのような目的で、誰に、どのような状況でコミュニケーションするのかを大切に活動を組みます。そうすることで、語彙・表現の選択や表現のしかたの工夫が生まれ、児童の気づきや思考が深まると考えます。

資料2 横須賀アルファベットかるた



Yokosuka is famous for Mikasa Park. You can see Mikasa Battleship.

A: What food do you like?
B: I like curry.
A: Yokosuka is famous for Dobuita Street.
You can eat Navy Curry.



○相手意識をもったコミュニケーションを

- ・本校が最も大切にしているのが「相手」「他者」を意識したコミュニケーションです。聞き手の姿勢としては、最後まで聞く、相手が話したくなるような聞き方をする、反応しながら聞くなどの指導をします。話し手の姿勢としては、相手にとってわかりやすい伝え方を工夫する、相手の気持ちを考えて伝えるなどの指導をします。このような相手意識をもたせることが、様々な表現の工夫につながると考えます。
- ・Eye ContactやClear Voice, Smile, Gesture, Reactionなどは、パターン化されたものではなく、場面や状況、相手を思う気持ちから発する生きた表現ととらえます。

○知っている語彙・表現を駆使して伝える力を

- ・英語で何と言うかを知らなくても、これまで慣れ親しんできた語彙・表現を駆使したり、身ぶり・手ぶりを使ったり、絵などで視覚的に補いながら伝えたりするなどの工夫をしながら、何とか伝えようとする経験を多くさせたいと思います。

○文字や簡単な表現を書く時は気持ちを込めて

- ・書く目的に応じて、伝えたいことを気持ちをこめて書く活動を設定することが大切だと考えます（小学校段階では、音声で十分慣れ親しんだ単語・文をなぞったり、書き写したりする程度の活動です）。言語習得の過程を踏まえ、誰かに気持ちを伝えるためのツールとして文字を使うことを学ばせたいと思います。

○ALTの指導力を生かす

- ・他教科と同様、担任主導で指導を行う中で、担任、ALTのそれぞれの強みを生かすことが大切と考えます。
- ・ネイティブスピーカーであり、異文化を背景にもつALTの存在は貴重です。英語のモデルとしてだけでなく、伝え方のモデルとしても、ALTの指導力を積極的に生かしたいと思えます。

○日本語でも英語でも、相手の気持ちを考えて伝え合う「すわふわコミュニケーション」

- ・本校では、相手意識があり、心が温かくなる関わりを「すわふわ言葉」「すわふわ態度」と呼んでいます。低学年から高学年まで、外国語の授業を軸に、他教科や学級活動に広げて指導しています。言語、非言語の両面からコミュニケーション能力を育成することは、学び合いを深めることにも有効です。

小学校で伸ばしたい力

児童の発達の段階や実態に合わせて、特に小学校で意識して育成すべき資質・能力のひとつに、方略的なコミュニケーション能力があるのではないかと考えます。本校では、この点において次のような成果が見られるようになりました。

○聞き手の育ち

- ・わからない英語があっても、推測しながら最後まで聞いている。
- ・児童同士の理解が深まり、相手に興味をもって聞いている。
- ・日本語ではあまり考えないことを外国語を通して考えるきっかけになり、思考が深まっている。

○話し手の育ち

- ・何とかして自分の気持ちや思いを相手に伝えようとしている。
- ・相手の気持ちを考えて伝えている。
- ・相手にわかりやすい語彙・表現を選択し、工夫して伝えている。
- ・根拠をもって伝えている。

新学習指導要領の完全実施に向けて、今後は学習評価（パフォーマンス評価、観点別評価、高学年の評定等）についても研究を重ね、児童・生徒の学びと育ちを確かなものにしていきたいと思えます。

※参考：平成27年度～平成29年度 文部科学省委託事業「外国語教育強化地域拠点事業」研究紀要(2017)

小学校での経験を活かした 授業づくりの工夫

おおさわ学園 三鷹市立第七中学校 教諭
天本 晋平



はじめに

新学習指導要領への移行期間が始まり、これから英語が教科化されることを念頭に置いた小学校での英語の授業実践が行われています。新学習指導要領解説には、現行の学習指導要領による授業の取り組みの課題として、学年が上がるにつれて学習意欲に差が生じる点が挙げられています。その原因として書かれているのが、学校種間の接続が充分といえず、進級や進学をした際にそれまでの学習内容や指導方法を発展的に活かすことができていることです。また、「話す」「書く」といった言語活動が授業内で扱われる機会を増やす必要性や、「即興性」のある活動、児童生徒同士で「やりとり」する活動の必要性も同時に求められています。

小学校の英語活動の成果として、「話す力」、「聞く力」、そして「積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢」が養われてきていることが挙げられています。中学校では、小学校段階で身につけてきたこれらのスキルを活かし、「何を知っているか」ではなく「何ができるようになるか」に重きを置いた授業を展開していくことが必要とされています。

本稿では、新学習指導要領導入を見据え、小中の連携という視点に立ち、小学校での経験を活かし、より発展的な技能を身につけることを目指した授業展開の一例を示します。

小学校の経験を活かした授業展開のために

「積極的にコミュニケーションをとること」、「聞くこと」、「話すこと」について慣れ親しんだ生徒たちが、その特性を活かしながら活動を通して学べる授業は、どのように作られるでしょうか。大前提として私が大切にしているのは、活動時間を増やすことと、必然性を示すことです。

活動時間を増やすとは、具体的には1時間のうち生徒が聞いたり、話したり、読んだり、書いたりする時間をできる限り長く確保することと、そのために教師が説明する時間をできる限り少なくすることです。小学校で身につけてきた、積極的にコミュニケーションを図り、聞いたり読んだりする力を活かした活動をきっかけとして、読んだり書いたりする活動に発展させるよう展開しています。

また、生徒の活動の時間を確保するためには、生徒が活動に対して積極的に参加できる環境がなくてはなりません。生徒が自信をもって活動に参加できるようにすることが必要です。そのためにも一つ大切にしているのが、活動に参加する必然性です。生徒が活動に参加する動機となるよう、活動を通して身につけたスキルを使うと「何ができるようになるか」「何がわかるようになるか」を明確に示し、「できるようにになりたい」というモチベーションを引き出し、それを必然性として示すことが非常に大切です。

必然性を生む工夫

小さな工夫が大きな変化をもたらします。例えばピクチャーカードで登場人物を示すときや、アクティビティに登場させる有名人などの写真を見せるときに、下の図1のように絵や写真を見せたまま“Who is she?”とたずねても生徒からすれば答える意味がありません。たいてい誰もが知っている人物やキャラクターを扱うため、答えが解りきっていて答える必然性に欠けるのです。しかし、図2のように写真全部ではなく一部のみ見せて“Who is she?”とたずねると、ヒントをもとに正解を推測するため「他の生徒より早く答えたい」「そのために答え方を知りたい」と、小さな必然性が生まれます。このような小さな工夫を重ねることで生徒は参加することに対して意欲をもち始めます。ほんの小さな仕掛けですが、効果は非常に大きく、生徒のモチベーションに大きく影響しています。

図1



図2



インフォメーションギャップ

聞いたり話したりする活動であり、必然性を生みやすいものとしてインフォメーションギャップと呼ばれる活動があります。クラスメイト同士が異なる断片的な情報を与えられた状態で、インタビュー活動を通して答えを出す活動です。情報を相手から聞き出さなければ答えを導き出せないため、必然性が生じやすい活動といえます。また、「話す」「聞く」能力を活かして活動してから「書く」作業に移ることができます。さらに、以下のように謎解きの要素

を織り込むことで単調で機械的なQ&Aではなく、より考えさせ、生徒の動きを活発にすることができます。

【インフォメーションギャップの活動：犯人探し】

- ①状況を説明します。この場合、「リビングに置いてあったリンゴを盗み食った犯人を探している」という状況です。インタビューをして答えを探しますが、犯人だけは嘘を言います。3人のうち誰が犯人なのかを捜すことが目的です（説明にはパワーポイントを使います。A, B, Cにはいつも適宜教員の名前やキャラクターなどを入れていきます）。
- ②生徒がたどり着くべき情報が何かを提示します。
Q. Who ate the apple?
- ③生徒がたずねるべき質問を提示します。
Q. What were you doing then?
- ④ワークシートにはA, B, Cいずれか1人の立場から知りえる情報のみが表記されており、インタビュー活動を通して犯人を探します。

パターン1

A	I was sleeping in my room.
B	<u>B</u> was in the living room. Maybe he did.
C	_____

パターン2

A	_____
B	I was listening to music outside.
C	<u>C</u> was in the living room then. He was eating it.

パターン3

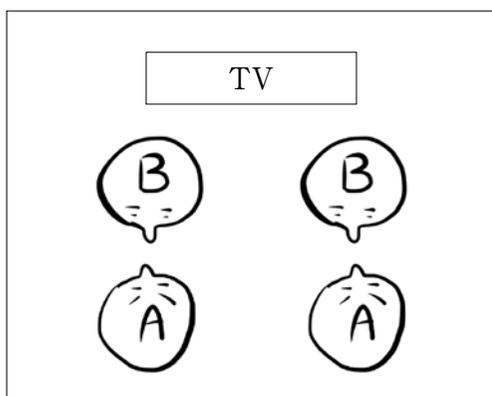
A	_____
B	_____
C	I was cooking in the kitchen. <u>A</u> was sleeping then.

この活動では、小学校で身につけてきた「積極的にコミュニケーションを図る姿勢」「話す力」「聞く力」を活かして情報を収集します。さらに、ワークシートを「読む」ことやクラスメイトから得た情報を「書く」ことで、音声を手文字へつなげることができます。このプロセスは、小学校英語で培われた能力が定着しているほどスムーズに進行します。小学校で身につけた力を発展させて他の領域の力に結び付けられるのです。

ホットシート

もう1つアクティビティを紹介したいと思います。Hot Seatと呼ばれる活動です。生徒はペアで活動します。図3のように、1人は前を向き、もう1人は後ろを向いて、ペアが向き合うよう座ります。黒板、あるいはテレビのモニターに写真や絵を掲示し、それが見えている生徒（A）はパートナー（B）に自分が見えている絵を英語で説明します。見えていない生徒は、パートナーの説明を聞いてメモを取り、あとでそのメモをもとに絵を再現します。

図3



ここで大切なのは、状況設定です。例えば、There is構文の導入として行う場合、以下のような状況を設定して行いました。

【ホットシート：留学先での電話】

- ・現在海外にホームステイしている。
- ・外国人の友達に部屋の様子を伝えたい。

・電話で話しているので写真やジェスチャーで伝えることができない。

このように状況を限定することで「英語で伝えなければならない」という必然性を提供します。また、提示する絵も生徒が興味を抱き、ぜひ「伝えたい」「説明したい」と思えるものであることも大切にしています。この時間では実際にホームステイを経験した時に撮ってあった写真を扱いました（図4）。

図4



おわりに

学校教育において、英語教育は大きな過渡期を迎えています。新学習指導要領で謳われているように、それぞれの学年間、学校間での連携が一層大切になるでしょう。小学校での経験を活かして発展させることは、少しの工夫を加えれば中学校の英語教育にとっても大きなアドバンテージになります。生徒の経験、特性を踏まえ、次の課題へとステップアップしてゆくプロセスを経て、学年が上がっても学習意欲を高く保てるような授業展開を目指します。

英語教育 なんでも相談室

03

千代田区立九段中等教育学校 指導教諭
本多 敏幸

中央教育審議会教育課程部会
外国語ワーキンググループ委員。
ELEC同友会英語教育学会会長、
英語授業研究会理事。

ONE WORLDの著者である本多先生が、
現場の先生方のお悩みになんでもお答えする連載です。
第3回目である今回は、どんなお悩みが寄せられたでしょうか。



今回のご相談

授業でリーディングを行う際、その前後に
どのような活動を取り入れることができるでしょうか。

1 リーディングの前に行う活動

教科書には、読むことを前提とした教材が通常の単元（レッスン）の中にもリーディングレッスンとしても載せられています。リーディング教材を指導する際、その目的に応じて様々なpre-reading活動を行うことが考えられます。ONE WORLD English Course 3のReading Lesson 1 “The Diary of Anne Frank”を例に挙げてどのような活動が可能か考えてみましょう。

①題材に興味をもたせる目的の活動例

・アンネの写真を見せ、生徒とのやり取りの中で、人物名、日記を書いたのが生徒と同じくらいの年齢であること、死亡したのが15歳であることを述べ、「同世代の少女がどんなことを日記に書いていたのか読んでみよう」と生徒に語りかける。

②題材の背景知識を活性化させる目的の活動

・アンネやアンネの日記の写真を見せ、知っている

ることをペアやグループで述べ合わせる。なお、英語で情報交換をするのは難しい場合、最初は英語で述べさせ、途中から日本語に切り替えさせるとよい。

③背景知識を与える活動

・ヨーロッパの地図や当時の写真などを用いて、当時の状況やフランク一家がオランダに亡命した理由、オランダのどこにどのように住んでいたのかなどの知識を与える。

④概略を説明する活動

・教科書に載っている日記の概略を述べる。その際、church, attic, cattle car, campなどの写真を見せながら、生徒が黙読するときこれらの単語が画像として思い描けるようにする。

指導をする際にはこれらのうちの1つのみを行うのではなく、組み合わせて行います。リーディング教材では、黙読を通して内容理解を行わせる言

語活動を大事にします。

2 リーディングの後に行う活動

本文の内容理解を行い、音読を行った後はスピーキング活動かライティング活動を行います。“The Diary of Anne Frank”における言語活動を考えてみましょう。

①日記を書く活動

- ・アンネになったつもりで、p.44の日記の強制収容所の記述の後にさらに続けて書く。
- ・戦争が終わった1945年、誕生日である6月12日にアンネがまだ生きていたとして、アンネになったつもりで日記を書く。

書く言語活動の後は、日記をグループ内で回し読みさせたり自分の書いた日記を朗読発表させたりするなどの活動を行います。

②手紙を書く活動

- ・p.46の誕生日のときの日記に対して、アンネへ手紙を書く。
- ・アンネになったつもりで、オランダの隠れ家からドイツにいる友達に手紙を書く。

③感想を述べる活動

- ・アンネの日記を読んだ感想を述べる。その際、日記の中で印象に残ったところを引用させて、それについて意見や感想を述べるようにさせる。
例：In her diary, she says, “The Gestapo is taking our many Jewish friends away.” I’m very sad to think about her friends. If I were Anne, I would cry every day.

④説明する活動

- ・アンネの一生について説明する。その際、日記の英文を参考にするように指示を出す。
例：In August 1943, the Germans came to the church near Anne’s attic. They took the church bells away to melt them down for the war.

3 薦めたいStory Retellingの活動

Story Retellingとは本文内容を自分の言葉で再生する活動です。通常、イラスト（ピクチャー・カー

ド）や写真及びカギとなる語句を頼りに再生させます。事前に十分に練習させて行わせることが多いと思いますが、別の方法でとてもActiveなやり方を紹介します。

Retellingに適しているのは、物語文など言いやすく分量のあるリーディング教材です。したがって、“The Diary of Anne Frank”のようにトピックが1回毎に異なる教材は適しません。例えば、3年生のOptional Reading 4, “John Mung”のような教材がよいでしょう。

内容理解の後、音読からRetellingを行わせる手順を説明します。“John Mung”は6ページに渡る語数の多い教材です。このうち、最初のページの音読指導を行います。Choral ReadingやBuzz Readingなどで何度も音読させた後、各自でRead and look upをしながら本文を言わせませす。この直後に生徒同士をペアにします。まず、ペアのうちの一人の生徒を立たせ、教科書を見ないでパートナーにRetellingを行なわせませす。このとき、聞く側の生徒は教科書を開いたままにしておき、話す側の生徒が黙ってしまったときに、“What happened when he was 14?”などと質問したり、カギとなる語句を言ったりしてパートナーの発話を助けます。また、間違った情報を述べたときにも正しく言い直してあげるように指示を出しておきます。

1ページ目を終えたら2ページ目の音読活動を同じ方法で行わせませす。ただし、Retellingを行う際には、1ページ目と2ページ目の両方を言わせませす。3ページ目を行ったときには1～3ページの内容を再生させませす。このように、情報を徐々に増やしていくRetellingを行わせませす。

この活動では、何度も音読を行い、Read and look upを行った直後にRetellingに移ることがポイントです。音読を行うことで、内容は完全に頭に入ります。また、Read and look upにより、本文の英語表現を断片的に覚えています。これらを頼りに、自分の言葉を駆使して内容を再生させるのです。教師が予測した以上に生徒のパフォーマンスは素晴らしいので、ぜひ試してみてください。

イラスト：深川 優

とっておきの英語 16

津田塾大学大学院 教授
野田 小枝子

I am brave, I am bruised
I am who I'm meant to be, this is me



🎬 ショーマンとしてのジャックマン

前回に引き続き今回もミュージカル映画、今回は話題の『グレイテスト・ショーマン』です。

2009年のアカデミー賞の授賞式に司会者として登場、シルクハットで踊るヒュー・ジャックマンを見て、なぜハリウッドの人たちはこの俳優を使ったミュージカル映画を作らないのだろうと思ったことでした。

素人でもそう思ったくらいなので、同じことを思ったプロデューサーがいても不思議はありません。この授賞式の番組プロデュースをしていたローレンス・マークは、舞台上で踊るこの俳優を見て、19世紀アメリカのショーマン、P. T. バーナムの映画をジャックマンで作らなければと思ったそうです。

言い換えれば、この映画は、「見せる人、芸達者な人」の意味でのショーマンであるジャックマンに歌わせ踊らせることを中心に据えた映画という見方をするとわかりやすいと思います。

ときには詐欺師まがいであり、後に政治家としても活躍した「興行師」の意味でのショーマンであるバーナムの人生を忠実に描くとか、バーナムの時代を正確に描くとかそういうことは優先されていません。

サーカスの舞台の真ん中で踊り歌うジャックマンを見て「世界中で彼以上にサマになるショーマンはいない！」と思えば、プロデューサーの狙いは達成されたといつてよいでしょう。

🎬 ミュージカルとしての楽しみ

観客動員数がかなり多くなった映画なので、大勢の人がすでに楽しんできています。大学生からも「魅

せられた」という声が聞こえてきます。

このミュージカルの曲の質が高いと思われる理由には、振り返ってストーリーを考えた時に、『サウンド・オブ・ミュージック』の映画がちょうどそうなのですが、次から次へと使われている歌の記憶がよみがえるということがあります。同時にダンスの振り付けも頭に浮かんできます。

マイケル・グレイシー監督は、歌でストーリーのほとんどを語り、ダンスの振り付けを通してメッセージを伝えようとしているのだという感じを持ちます。そのメッセージとは、映画の中で辛口評論家のベネットが口にする「人間礼賛」ということだと思います。

なぜこんなに賑やかなポップのメロディーにすべて乗せてしまうのかと思いましたが、隠れていないで人生の大舞台に乗り、思いきり踊りなさいというメッセージと取れば理解できます。

その時代では許されない異人種との恋に苦しむ黒人女性アンと恋人の男性との歌では、信じられないほどの動きを伴う振り付けで感情の大きな揺れと激しさを表現しており、美しいシーンです。

歌とダンスでストーリーを次々とつないでいくというやり方は、コマーシャル・フィルムを多く撮影してきた監督ならではのことだと思います。

🎬 ちょっといいセリフ

バーナムのショーを常に辛辣に批評する評論家のベネットが、ショーの土産物についてバーナムに話しかけるシーンです。

“ Bennett: Tell me, Mr. Barnum, does it bother you that everything you're selling is

邦題：『グレイテスト・ショーマン』
原題：The Greatest Showman
製作国：アメリカ
製作年：2017年
監督：マイケル・グレイシー
出演：ヒュー・ジャックマン
DVD：20世紀フォックス・ホーム・
エンターテインメント・ジャパン

ショービジネスの原点を築いた伝説の興行師、P. T. バーナムの半生を描くミュージカル映画。舞台は19世紀アメリカ。会社の倒産を機に、バーナムは個性的なメンバーを集めた型破りなショーを始め、大成功を収める。しかし、成功に取り憑かれた彼は、いつしか人生を踏み外していく…。

fake?

Barnum: Do these smiles seem fake? It doesn't matter where they come from. The joy is real.

Bennett: So you are a philanthropist?

Barnum: Well, hyperbole isn't the worst crime. Men suffer more from imagining too little than too much.

ベネット：偽物ばかり売って気が咎めないのかね、バーナムさん。

バーナム：お客さんの笑顔が偽物に見えますか？笑顔の理由は問題じゃない。喜びこそが本物なんですよ。

ベネット：慈善家というわけですか。

バーナム：大げさに言うのは決して一番悪いことなんかじゃありませんよ。想像力があり過ぎるより、なさ過ぎて困るのが人間なんだから。

このベネットが、火事に遭いすべてなくしたバーナムのそばに来て寄り添う場面があります。

“ *Bennett*: Putting folks of all kinds on stage with you, all colors, shapes, sizes, and presenting them as equals... Why, another critic might have even called it “a celebration of humanity.”

Barnum: I would've liked that.

ベネット：肌の色も形も大きさもみんな違う人々を舞台と一緒に上げて、皆同じ人間として扱う…。「人間礼賛だ」と評することもできたかもしれませ

んな。

バーナム：歓迎すべきコメントでしたがね。

とっておきの歌詞

レティという髭に覆われた女性が歌う、この映画の中で最もよく知られた歌の一部です。日本語は字幕翻訳を担当した石田泰子さんのものです。

“ I am brave, I am bruised
I am who I'm meant to be, this is me
Look out 'cause here I come
And I'm marching on to the beat I drum
I'm not scared to be seen
I make no apologies, this is me
勇気がある、傷もある、ありのままにいく
これが私だ
気をつけろ、私が行く
自分でたたくドラマが伴奏
見られても怖くない、謝る必要もない
これが私だ

外見や考え方が人と違うからと傷つくようなことを言われても、私はこのままの自分でよい、傷ついても勇敢に歩いていくという力強いメッセージです。この力強いメッセージを必要とするすべての中学生に、この歌を聞いて元気になってもらいたいです。あなたは一人じゃない。そのままのあなたに誇りをもってよいと知ってほしいです。

(写真：PPS 通信社)

Say cheese!

Peter J. Collins
Tokai University



さまざまなテーマについて、辞書に載っていないような、今ドキの英語について紹介する連載です。今号は自撮り (selfie) にまつわる言いまわしについて。

Sigh... I have a really nice camera that I bought a couple years ago. Cute. Stylish. Enough functions to fill a 200-page manual. But I've only ever used my camera two or three times; in the time it takes to get it out, choose the settings and the filters, and take the shot, I can take five or six photos on my smartphone and post them on three different social networks!

I admit to being a **shutterbug**; someone who loves taking photos. This term combines the "shutter" of a camera with "bug", meaning a virus. In other words, it's almost like a sickness; shutterbugs simply can't stop themselves from snapping pictures.

At least I don't take a lot of selfies, and I don't carry a **selfie stick** around with me. My favorite nickname for a selfie stick is **narcissistick**, a play on "narcissistic," which is how people are often viewed when they continually take selfies. I've also never taken a **welfie**: a workout selfie taken while exercising. I do, however, tend to take **groupies**: pictures of myself with friends. These are also called **ussies**, since they're photos of "us." Celebrity-packed ussies are easy to find on the Internet. There are a couple subcategories of ussie, as well; the **twofie** and the **threefie** are shots of two and three people, respectively.

Do you want to share your eye makeup skills? Why not take a **selfeye** and post it on Instagram? You could also take a **helfie** of your hair or even a **beardie** of your beard, if you think

shutterbug:

アマチュア写真家。

selfie stick:

自撮り棒。自らを被写体として撮影するため、カメラに取り付けて使う棒状の器具。

narcissistick:

ナルシスト棒。
自撮り棒を皮肉った別称。

welfie:

ウェルフィー。エクササイズ中の自撮り。
"work-out selfie"の略。

groupie:

グループでの自撮り。
友達との集合写真。

ussie:

私達("us")の自撮り。

twofie / threefie:

2人/3人での自撮り。

selfeye:

アイメイクの自撮り。

helfie:

ヘアスタイルの自撮り。

beardie:

鬚の自撮り。

anyone is interested. There are even **drelfies** (people who post pictures of themselves drunk) and **dronies**, which are short videos people make of themselves by using – you guessed it – drones.

An unfortunate word – and tend – is the **belfie**, which comes from butt + selfie and applies to people who want to see what they look like from behind and take photos of their butts. *Cosmopolitan's* website includes an article entitled “How to take a good butt selfie” and uses the word “belfie” over and over. Times have certainly changed since the days when we had to take rolls of films to photo studios to be developed!

Back then, when we had to wait a few days for our photos to be ready, there was a certain amount of suspense. Would they be overexposed? Would anyone in the photo have red-eye? Would there be a **photobomber**? This was a person who showed up in the background of a photo, either accidentally or intentionally, ruining the shot. Recently, there are countless examples of funny **photobombs** online; the photobombers range from famous people to pets.

As technology in even the most basic smartphones and digital cameras improves, amateur shutterbugs can get impressive results. **Uncle Bobs** are family members or friends at an event who consider themselves to be as good as a professional. It can be extremely frustrating for a hired photographer when an Uncle Bob gets in the way of their work; Lisa Robinson at Photofocus.com has even written a piece entitled “Managing ‘Uncle Bob’ at Weddings.” It’s unlikely I’ll ever be an Uncle Bob, now that I’m sticking to my smartphone.

I wonder if anyone has photobombed a belfie...

drelfie:

酔い姿の自撮り。

dronie:

ドローニー。

ドローンを使った空中からの自撮り。

belfie:

お尻の自撮り。

“butt” (お尻) + selfieより。

photobomber:

フォトボマー。メインの被写体の背後に、偶然もしくは意図して、映り込む人。

photobomb:

フォトボム。他人の写真に写りこむ行為。アメリカのセレブの間でも流行している。

Uncle Bob:

結婚式などの行事で度々見かける招待客で、自称プロ級の写真家。ときにプロのカメラマンの邪魔になる存在。



第16回

まもなく締め切り!!

地球となかよしメッセージ

作品募集 (2018年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、
写真(またはイラスト)にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に
参加賞が
もらえるよ!

応募資格	小学生・中学生(数名のグループ単位での応募も可)
応募期間	2018年7月1日～9月30日 詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。
作品 テーマ	①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境や生き物を守るための取り組み ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交流、国際理解に関すること ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

◎主催/教育出版 ◎協賛/日本環境教育学会
◎後援/環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞
*協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね
<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

教育出版

「地球となかよし」事務局

TEL 03-3238-6862 FAX 03-3238-6887
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

前回
入選作品



夏至の日に北回歸線が通る場所で
何かが起こる?

4月から台湾に住んでいる。地球儀を見ていると台湾を横断する北回歸線を見つけた。不思議に思い調べると、夏至の日に北回歸線が通る場所で何かが起こると聞き、家族で北回歸線標のある嘉義に行き、南中時刻に写真を撮ると、何と「影のない世界」が体験できた!
これは太陽が頭の真上に来る場所が地球上にあり、北回歸線より南、南回歸線より北の地域であり、地球は地軸を傾けたまま太陽の周りを公転するからである。世界は不思議なことばかり。私たちは台湾で影のない世界を体験できました!

英語教育 通信 ONE WORLD Info (2018年 秋号) 2018年8月31日 発行

編集: 教育出版株式会社編集局

発行: 教育出版株式会社 代表者: 伊東千尋

印刷: 大日本印刷株式会社

発行所: 教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

電話 03-3238-6864 (お問い合わせ)

URL <https://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社 〒060-0003 札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F

TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509

函館営業所 〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一ビルディング 3F

TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198

東北支社 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F

TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395

中部支社 〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル 5F

TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825

関西支社 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F

TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401

中国支社 〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F

TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040

四国支社 〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F

TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134

九州支社 〒812-0007 福岡市博多区2-11-30 クレセント東福岡E室

TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140

沖縄営業所 〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル 3F

TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411

表紙イラスト: QUESTION No.6

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」のっとり、配付を許可されているものです。